

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

24 (通巻28号)

平成18年6月23日発行

目次

こんながあります -いちおしレファレンス・ブック- 【17】	
明治期の資料は『近代デジタルライブラリー』で見る	1
Librarian's Box(ししょぼこ) 【14】	
インターネットで『官報』が身近に	2
市町村のみなさんからの発信 【15】	
高田富與の江別時代 江別市情報図書館 館長 佐々木孝一さん	3
ここ数年のレファレンスの傾向と利用の伸ばし方	4
課員のつぶやき -日々の業務からの短信- 【16】	
『参考調査課の一員として...』	5
平成18年度参考調査課の重点的取り組みについて	6
新しく図書館(室)の担当になられた方へ	7
レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介 (2006年3月~6月分)	8
News	9
1 「本の国へようこそ!!」開催	
2 「書庫ツアー」大盛況!	
3 平成18年度第1回道民カレッジ 能力開発コース 連携講座開催	
4 文部科学省『これからの図書館像-地域を支える情報拠点を目差して-』公表	
5 函館市中央図書館、帯広市図書館、幕別町図書館がWeb OPAC公開	
6 NHK教育テレビで図書館の本の被害をテーマにした番組を放送	
7 国立国会図書館「統計資料レファレンス・ガイド」公開	
8 『図書館のための個人情報保護ガイドブック』出版	
9 グループに分かれてのレファレンス演習	
10 BL(ビジネスライブラリアン)講習会北海道開催	
編集後記	11
付録	
相互貸借 検索と申込み の基本原則	
平成18年度「市町村図書館職員レファレンス体験研修」実施要項	
メールレファレンス試行のご案内	



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - 【17】

明治期の資料は『近代デジタルライブラリー』で見える

古い資料の調査依頼は、自館にあればたとえ貸出不可であっても現物で内容を確認できますが、未所蔵の場合は、貸出制限等の条件もあり、書誌確定等内容を推測、掲載された他の資料の紹介等、大変時間と手間を要するため身構えてしまいます。

しかし、最近では、デジタル化された資料もあり、インターネットができる環境であれば閲覧でき、便利になりました。

レファレンス・ブックではありませんが、当課では、国立国会図書館 HP 内にある『近代デジタルライブラリー』で、今年度に入り2件回答しています。

1つは、『銀行会社要録』(東京興信所 明治40年前後のもの)がご覧になりたいという事例です。当館では古いもので昭和7年発行の資料しかなく、通常は調査内容を聞き取り、該当部分の複写依頼をするか、もしくは、その資料中の「役員録」だけでよければ、当館資料『明治期日本全国資産家・地主資料集成5』(柏書房 1984)に明治34・44年の掲載があり、そちらを提供するところでした。しかし、このデータベースでは、明治30年から45年まで収録されていました。

もう1つは、明治44年(普通選挙法案が初めて衆議院で通過した年)の衆議院議員の人数(士族・平民の人数)を求められたものです。『官報』では氏名はありましたが、身分の記載がなく、こちらデータベースで『衆議院議員名簿第1-28回帝国議会』(衆議院事務局 明治23-45年)により確認することができました。

このデータベースは、国立国会図書館所蔵の明治期刊行図書を収録した画像データベースで、平成14年度から蓄積され、平成18年4月現在、約127,000冊収録されています。収録されている資料は、児童図書と欧文図書を除いたもののうち、著作権保護期間が満了したもの、著作権者の許諾を得たもの及び文化庁長官の裁定を受けたものと説明があります。

国立国会図書館HP (<http://www.ndl.go.jp/>)の「電子図書館の蔵書」をクリックすると、『近代デジタルライブラリー』の項目にたどりつきます。そこで検索欄に書名等を入力します。分類一覧や詳細検索でも探せるようになっています。

画像は、見開きのページが映し出され、矢印等で該当ページを探します。画像の大きさや向きも変えることができます。また、その画面のPDFファイルを作成して画像を印刷することもできるので時間や費用の面では大変便利です。

先日は、先祖をたどるとのことで『紀伊続風土記 第一輯』の所蔵調査があり、検索しました。残念ながらこの輯のみ公開されておらず、このとおり、すべて見られるわけではありませんが、突然の所蔵(館)調査にも役立つ、明治期の資料であれば一度検索してみる価値のあるデータベースだと思います。

*他にもデジタルライブラリーとして公開しているところがあります。

- ・ 京都大学電子図書館貴重資料画像〔国宝(今昔物語集)重要文化財をはじめとする多数の貴重資料を収録〕 <http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/>
- ・ 國學院大學図書館デジタルライブラリー
<http://k-aiser.kokugakuin.ac.jp/digital/diglib/diglib.html>
- ・ 札幌市中央図書館デジタルライブラリー
http://gazo.library.city.sapporo.jp/ACcount/AC_CNT.CGI

Librarian's Box (ししょぼ) 【14】

インターネットで『官報』が身近に

当館では『官報』を明治16年7月2日の創刊から、原紙とマイクロフィルム(明治16年7月~大正15年12月と一部欠号部分)により所蔵しています。これらを資料としてより有効に活用できるよう、昨年より国立印刷局が提供する「**官報情報検索サービス**」(インターネットで検索できる有料の会員制サービス)の利用を始めました。昭和22年5月3日以降、当日発行分(当日分は午前11時以降に公開)までの官報の本紙、号外、政府調達公告版、資料版、目録について、日付や掲載日とキーワードを指定しての記事単位の検索が可能です。また、「国会議員名選択」の機能により特定の議員名を含む記事も検索できます。

このデータベースにより瞬時に必要なデータを検索できるようになったことで、以前よりも『官報』が身近な資料に感じられるようになりました。市町村の皆さんからの照会にも迅速に対応できます。まさにインターネット様々です。

『官報』については、ほかに次のような無料のサイトがあり、自由にアクセスできます。皆さんの図書館においても有効なツールとなる『官報』を身近な資料にしませんか。

インターネット版「官報」 <http://kanpou.npb.go.jp/>

独立行政法人国立印刷局が提供するインターネット版『官報』。本紙・号外・政府調達・資料版について、直近1週間分をPDFファイルで掲載。

首相官邸 官報ダイジェスト <http://www.kantei.go.jp/jp/kanpo/digest.html>

検索時から一週間分の本紙・号外の目次掲載。法律・政令・条約については、本文へリンクされている。

首相官邸 官報バックナンバー <http://www.kantei.go.jp/jp/kanpo/digest-bk.html>

検索時から1年前までの本紙・号外の目次掲載。法律・政令・条約については、本文へリンクされている。

首相官邸 官報資料版 <http://www.kantei.go.jp/jp/kanpo-shiryō/index.html>

平成9年8月6日以降の官報資料版について、テキストファイルで閲覧可能。週1回、毎週水曜日発行(平成16年4月以降は「政府広報オンライン」へのリンク)。

<http://www.gov-online.go.jp/publicity/book/kanpo-shiryō/index.html>

政府刊行物/官報/官報公告 <http://www.gov-book.or.jp/kanpou/>

全官報(全国官報販売協同組合)のサイト。「画像で見る官報~その歴史と内容~」、目次検索(1996年6月30日以降の本紙・号外・政府調達・資料版)、「編集発行」、公告の概要・申込方法等。

政府公共調達データベース <http://www.jetro.go.jp/matching/procurement/>

JETRO(日本貿易振興機構)による官報に掲載される政府調達に関する公告などを提供。公示の種類、官報掲載日、品目分類、調達機関、調達機関所在地、納入期限、開札日時等から検索。テキストファイルで閲覧可能。

株かんぼう <http://kanpo.net/>

政府刊行物や官報の販売を取り扱う株式会社かんぼうのサイト。「今日の官報」(目次一覧)のほか、本紙・号外・政府調達について1999年4月以降全文、日付検索ができる。また、法定広告や決算公告など官報への公告掲載の申込みがオンラインから行える。

官報検索通知サービス <http://nyusatu.com/>

ビジネスサーチテクノロジー株が運用する、事前に自分が必要な官報に含まれると思われるキーワードを登録しておく、国立印刷局がネット上で公開している最新の官報データ(PDF)からそのキーワードで検索した結果を1日1回メールで通知するというシステム。

その他の関連サイト、参考資料

中野文庫 <http://www.geocities.jp/nakanolib/index.html>

『リーガル・リサーチ 第2版』いしかわまりこ、村井のり子、藤井康子共著 指宿信(ほか)監修 日本評論社 2005.12)

『Do-Re』No.11(通巻15号)平成15年7月5日発行 「官庁・法令情報を知るために」

市町村のみなさんからの発信 【15】

たかだとのみのは

高田富興の江別時代

江別市情報図書館 館長 佐々木 孝一 さん

市史編さんの作業は、一面、多様で多数の人々との出会いの機会になる。連綿としてつづく市井の人々の営みが、つながり合い、絡み合い、うねりながら展開する。そんな中で、思わぬ縁の人々に出会うという、果実を伴うこともある。新憲法公布直後から三期 12 年間、札幌市長の任にあった、高田富興もそんなひとりだ。

高田は、晩年に詳細な自叙伝を著す。「なぎさのあしあと」(昭和 45 年・柏葉書院)がそれだ。この本との出会いがなければ、彼が江西尋常高等小学校(現・江別第二小学校)の卒業生であることなど、知る由もなかった。彼に関する記述のほとんどは、後半生に重きが置かれ、精神性の拠り所となった揺籃期が閑却されているからだ。

明治 25(1892)年、福島県石城郡大野村(現・いわき市)で出生した高田は、家運の急傾によって、11 才で渡道した。とりあえず豊平村の知人宅に身を寄せるが、100 日余で野幌兵村の親戚を頼って転居する。高等科 4 年卒業までの三年半、「苦難の連続」の生活をここで送る。両親が煉瓦工場や農家出面で収入を得、辛うじて糊口をしのぐ生活、大人の諍いという精神的な苦痛を伴うものでもあった。

野幌兵村の生活は日露戦争に重なる。戦時下の兵村や小学校の様子、江別のことが活写される。恩師や学校の出来事、自然環境と子どもの遊び、そして壮丁として戦地におもむく兵員輸送列車の昼夜を分かたつことのない見送りなどなど、貴重な証言がつづく。

高田は高等科を卒業の後、札幌郵便局通信伝習性養成所に学び、電信の取り扱いを習得する。修了後は、電信業務を郵便とともに取り扱っていた郵便局職員となる。最初の赴任地は岩見沢であったが、明治 41(1908)年 7 月からは江別郵便局勤務になる。爾来一年半、野幌兵村に住む母親と同居し、江別市街の局まで徒歩で通う毎日がつづく。

そのころ江別郵便局長は、岩田外喜男といった。味噌醤油醸造業で現在の岩田醸造(株)に連なる資産家でもあった。偶然にも高田が野幌兵村で借家としていたのは、岩田家が金沢から入植し、切り開いた土地の隣地である。岩田家発祥の地には現在、情報図書館が建っている。巡り合わせとはいえ、縁の深さを痛感する。

弁護士、札幌市議、札幌市長、衆議院議員と彼の後半生は、次第に輝きを増す。また数多くの文献にも紹介されており、改めて述べる必要を感じない。しかしただひとつ、昭和 18(1943)年、太平洋戦争も末期の時期、治安維持法の標的にされた北海道の教師たちを弁護した一件だけは忘れられない。「綴方連盟事件」と呼ばれるものだが、予審制度が徹底していた当時、こうした思想「犯罪」の被告は、よほど信念のある者を除いて、罪をみとめ本裁判で情状酌量を求めるのがほとんどであった。そんな中で高田は、本件が治安維持法にまったく抵触しない教育実践のひとつであることを確信し、事実関係の確認のため、証人申請を行い、証拠調べを求めるなど、全面的に争う姿勢をみせた。結果は有罪判決となったが、暗黒時代の思想裁判で画期的な弁護を展開したのである。

彼自身にとって、この事件はひときわ思い入れのあるものでもあった。札幌市長の退任直後、保存していた公判記録を自費出版したことから、思い入れのほどが伺われる。こうした彼の基調の源流が江別の地に縁があるとすれば、感慨も一入である。

ともあれ、硬骨漢、高田富興も死んでから四半世紀の月日が流れた。自伝を残す政治家など稀でしかない昨今、「なぎさのあしあと」は、江別の同時代の様子を貴重な記録として、残してくれている。

参考文献

- 『なぎさのあしあと』(高田富興著 柏葉書院 1970) 『綴方連盟事件』(高田富興著 1958)
『真実の先生 北方教育の魂、加藤周四郎物語』(戸田金一著 教育史料出版会 1994)
『新江別市史』(江別市 2005) 『八十年の回想』(江別第二小学校編 1965)

ここ数年のレファレンスの傾向と利用の伸ばし方

ここ数年、当課に寄せられる市町村の皆さんからの調査の傾向を見てみると、主に所蔵館調査の件数に変化が見られます。皆さんの図書館に日々寄せられるリクエストの件数は増加していると思われませんが、Web-OPAC(インターネット上の蔵書目録)が整備されてきたために、現在流通しているような図書の所蔵館(所在)調査については、各々の図書館で行われるようになり、Web-OPACだけでは調査が難しい資料などが当課に寄せられるようになってきています。

ある図書館では、利用者から来るリクエスト件数はここ数年変化無いが、新刊については直接当館のホームページから購入リクエストをかけるようになったので、当課へ依頼する調査の件数は減少しているという話もありました。

今回取り上げるのは、空知管内にある由仁町ゆめっく館です。こちらは複合型施設の図書館で、こども映画会・おはなし会を定期的で開催するなど多方面に活発な活動を行っています。最近増加している利用者からの問い合わせにも、当館を利用することによって上手に対応している良い例となっています。

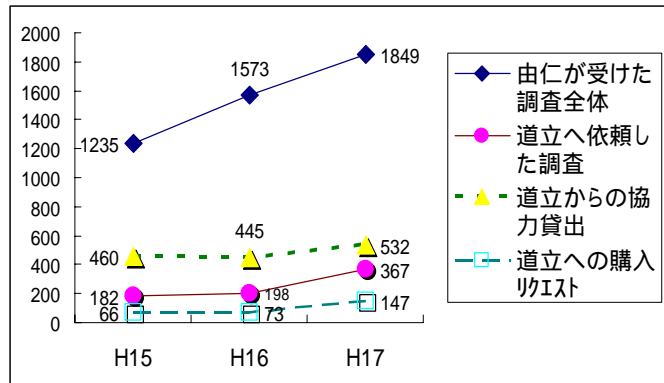
由仁町ゆめっく館 HP http://www.town.yuni.lg.jp/frame01_top07yumekkukan.htm

由仁町ゆめっく館過去3年間の実績

	H15	H16	H17
由仁が受けた調査全体	1235	1573	1849
道立へ依頼した調査	182	198	367
道立からの協力貸出	460	445	532
道立への購入リクエスト	66	73	147

購入リクエストの数は協力貸出に含まれます

由仁の個人貸出冊数	42,014	40,554	40,819
-----------	--------	--------	--------



由仁町ゆめっく館のこの3年間の実績と当館との関係を見てみると、年を追うごとに右肩上がりに増えていることがわかります。グラフには表わしていない個人貸出の件数については、この3年間だけだと若干下がったように見えますが、それ以前の長い期間で考えると順調に伸びつつあるということです。

ゆめっく館では、図書館利用を館内展示や町広報で毎号PRしたり、図書館間の相互貸借が可能であることを目立つように掲示物で知らせるなど、この2年ほど利用者への広報に力を入れています。カウンターにはリクエスト用紙を手に取りやすいように配置するなど、環境を整える工夫がされています。

インターネットの発達によって、利用者自身が図書館の所蔵資料の検索など、ある程度の調査を行うことが可能となってきた分、それを踏まえた更にレベルの高い調査を行うことが、これからの図書館には求められています。

当館への調査依頼、リクエストをはじめ、図書館同士が相互協力して利用者の要求には必ず応えるということをお知らせし、信頼を得るよう努力していくことがますます重要となってきています。

課員のつぶやき - 日々の業務からの短信 - 【16】

『参考調査課の一員として...』

4月から、参考調査課の一員となりました。今まではお世話になる一方の立場の市立図書館にいたので、立場が一変し、今度は応える立場となりました。

レファレンスで使用する書誌や参考図書の重厚さに圧倒されるばかり……。歴史ある資料、雑誌群、貴重な資料が揃っていて「さすが、道立図書館」という感じを受けました。参考調査課は、電話を取ったら、即レファレンスの質問です。カウンターに立てば、資料の出納。どこに資料があって、どんな資料が使えるのか把握していないということは、ツライことです。すぐに対応できない利用者へは、時間をいただきながら、一緒に探してみたり、後日回答したり。不安要素はまだまだいろいろありますが、何とか少しずつ前進していきたいと思う今日この頃です。

図書館員の仕事は経験の蓄積があつての仕事だと思います。参考調査課の一員として、情報収集や経験を重ねて、皆様に応えられるように努めていきたいと思っています。4月からの経験のなかから、ちょっとした体験記をご紹介します。

見つけた～

来館された利用者の方が、同じ分野の本をOPACで調べて、何度も資料の出納を頼まれました。「何か資料をお探しですか？」とたずねてみると、10年くらい前に当館でコピーした資料が手元にあるのだけど、資料名を控えるのを忘れてしまい、その資料を探しているとのこと。なかなか個人では、大変な探しものです。ほかにも「表紙の色、大きさ」など聞いてみましたが、それ以上の記憶は何せ10年も前のことで、覚えていないとのことでした。お手持ちの資料をコピーして預かり、時間をいただいて、こちらで後日探すことになりました。道立図書館には約80万冊の蔵書があります。そのなかから特定の1冊の資料を探すとすると至難の業？・・・分野が“土木構造関係”であったのと、コピーから資料の大きさ、10年前ということだったので、おおよその出版年が予想できました。それらを手がかりに、書庫で1冊ずつ開いて、コピーとの照らし合わせをしました。

数日かかりましたが、やっとのことで資料を見つけました。探しているうちに「無理かもしれない」と思っていたので、とても感動でした。利用者に連絡すると、仕事にいつも使っているコピー資料だったということで、大変喜んでくださいました。調査では、困難であればあるほど、見つけたときの感動が大きいものです。そして根気強く、諦めないことが大切だと思った調査でした。

- どんどん、お寄せください -

道立図書館は、市町村図書館と違った利用や役割があります。道民へのサービス、市町村への支援、北海道の「中核としての図書館」です。市町村の図書館職員の皆さんに「道立図書館」を身近に感じていただけたらと思っています。「資料者からのこんな質問だけど...」「こんな本をリクエストしても...」と思わないで、まずご連絡ください。

市町村図書館が、**困ったときの拠りどころとして「道立図書館」**をご利用ください。

平成 18 年度
参考調査課の重点的取り組みについて

先ず、参考調査課の顔ぶれについてお知らせします。
本年度の機構改正により、課員総数は変わりませんが、主査が 1 名減となったほか、次のとおり異動がありました。

- < 転出 > ・加藤ひろみ（北方資料部収集保存課へ）
・伊藤嘉奈子（奉仕部奉仕課へ）
- < 転入 > ・山本真紀（奉仕部奉仕課から）
・蛭名優子（研修交流、北広島市図書館から）

今年度は佐藤、宮本、工藤、山本、今野、蛭名、羽田（休職中）の 7 名で頑張ります。

次に、市町村向けの新たな試みなど、今年度の取り組みを紹介します。

1 「市町村図書館職員レファレンス体験研修」の定例的实施

研修希望者の要望に基づくカリキュラムで実施するこの事業は、市町村の皆さんからの申込みを受けてから実施時期等を決めてきましたが、今年度は予め実施時期を公表したうえで都合の良い時期を選んでいただき、早めに実施内容を決めるようにしたいと考えました。今年度の実施時期は、別紙(付録)の実施要項のとおりとしましたので積極的にご参加くださるようお願いいたします。

2 メールレファレンスの受付を試行

皆さんから寄せられる協力量レファレンスの受付と回答は、当課の最も重要な仕事です。これまでは電話、ファクシミリによる受付が主流でしたが、メールによる受付を希望する声もあることから、道内の公共図書館、公民館等に限定して試行することにしました。現状でできる範囲での立ち上げとなりますが、別紙(付録)「メールレファレンス試行のご案内」により行いますので、ご活用ください。

3 レファレンス関連情報の発信と充実

『北海道雑誌新聞総合目録』などの目録情報や有効サイト情報の充実を図り、市町村におけるレファレンスの推進に役立つ情報の提供に努めます。

4 レファレンス通信『Do-Re』の充実

皆さんのご協力を得て、図書館サービスに役立つ情報を幅広く提供しようと努力しています。今後も従前どおりの発行回数を維持し、なお一層創意工夫に努めて紙面の充実を目指します。

以上のほか、来館利用者向けには図書館利用講座等を次のとおり実施します。

- ・道民カレッジ連携講座 年 6 回（前期 5/31, 7/21, 9/29）
- ・子ども向け利用講座 「子ども読書の日」関連イベント（4/23）
- ・書庫ツアー 年 3 回（5/5, 8/3, 11/3）
- ・ミニ利用講座 毎月第 3 火曜日、閉館後 20 分程度

新しく図書館（室）の担当になられた方へ

『相互貸借の基本を守って上手に利用』

「利用者から難しい質問がきた」「自館の資料だけでは対応しきれない」そんなときは、どんな小さなことでもかまいませんので、「**道立図書館**」をフルにご利用ください。電話・FAX でいつでも受付しています。

当館ホームページ <http://www.library.pref.hokkaido.jp/> に各様式を掲載しています。

トップページ

図書館向け

利用案内

協力貸出し・調査相談

貸出申込

図書館資料貸出申込書

道立図書館に所蔵があるとき

(奉仕課・北方資料部へ)

所蔵(館)調査

所蔵(館)調査申込書

道立図書館や市町村、道内大学、道外の図書館など、どこに所蔵があるかお調べします

(参考調査課・北方資料部へ)

事項調査

事項調査申込書

情報、身近な事柄や簡単な調べものについて
所蔵資料等にもとづいて、回答します

(参考調査課・北方資料部へ)

現在は、ホームページ上で蔵書を公開している館も多くありますので、簡単にどこの図書館で資料を所蔵しているのか、調べることができます。借り受けする際にも最低限のルールやマナーがあります。お互いが気持ちよく利用できるようにしましょう。

依頼の前に再確認...



道立図書館には所蔵がありませんか？

原則、当館に所蔵がある場合は当館へ依頼してください。リクエスト(購入)することもできます。まずは、電話やFAXでお問い合わせください。

購入することは難しいですか？

市町村の図書館では、発行や受入から3～6ヵ月間は、地元の利用者への利用を優先します。(購入できる状況にあれば、入手することが望ましいです。)

依頼する図書館の利用状況はどうなっていますか？(禁帯・貸出中・予約多数など)

検索結果で、予約件数や貸出中の表示をしている図書館も多くあります。あまりにも利用頻度の高い本に貸出依頼するのは、マナーに反します。

依頼する図書館が限定されていませんか？

相互貸借といっても、相手の図書館にも送料を負担してもらうことになります。一館に集中して、負担をかけるのは、避けましょう。

依頼する際の依頼の仕方、情報に不備はありませんか？

図書館によって、メール・FAXなど依頼の受付の仕方が違います。書誌的事項(書名・著者名・出版者・出版年等)が違っていると依頼館に調査の手間をかけてしまいます。

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2006年3月～6月分)

論題(記事名) 著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載

(参考: 国立国会図書館 NDL OPAC 雑誌記事索引)

- 1 戦略的な選書のすすめ--ビジネス支援サービスの実践から (特集:選書が変われば、図書館が変わる) 豊田高広 『みんなの図書館』 教育史料出版会 / 図書館問題研究会編 (通号 350) [2006.6] 27～34 p
- 2 翻訳 ヴァーチャル・レファレンスにおけるプライバシー問題に関する研究 丁永玲、Zhan Deyou ; 櫻井待子訳 『図書館界』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会〔編〕 58(1) (通号 328) [2006.5] 28～31 p
- 3 引用に途惑うレファレンス:事実ではあるが真実ではない 三浦治 『大学の図書館』 大学図書館問題研究会 / 『大学の図書館』編集委員会 編 25(4) (通号 389) [2006.4] 54～56 p
- 4 国立国会図書館における科学技術分野のレファレンス・サービス (特集 科学技術情報の利用と図書館) 宮代信子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 100(4) (通号 989) [2006.4] 205～207 p
- 5 施設レポート 北の大地に輝くユニークな点字図書館 北海点字図書館 松浦実希 『視覚障害』 障害者団体定期刊行物協会 / 視覚障害者支援総合センター 編 (215) [2006.4] 39～44 p
- 6 私の社会教育実践史(3)図書館づくり 10 年を省みる 島袋正敏 『月刊社会教育』 国土社 / 「月刊社会教育」編集委員会 編 50(4) (通号 606) [2006.4] 71～75 p
- 7 解説 / 図書館における複写サービスに関する2つのガイドライン 安発義彦 『コピーライト』 著作権情報センター 46(540)[2006.4] 17～20 p
- 8 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ 7)特定テーマに関する文献を調べる (1)一般図書 大串夏身 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (70) [2006.4・5] 16～19 p
- 9 ネット辞書,コーパス,新しいレファレンスの使い方 (特集「辞書」の使い方・使わせ方) - (教師も使いこなそう!) 西納春雄 『英語教育』 大修館書店 / 大修館書店『英語教育』編集部 編 54(13) [2006.3] 22～24 p
- 10 日本の大学図書館におけるデジタルレファレンスサービス 安井裕美子 『医学図書館』 日本医学図書館協会 53(1) [2006.3] 48～54 p
- 11 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ 6)「図書」の探し方 大串 夏身 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (69) [2006.2・3] 22～25 p
- 12 事例報告 図書館パスファインダー作成報告とその可能性 市川美智子 『医学図書館』 日本医学図書館協会 53(1) [2006.3] 55～59 p
- 13 農業がおもしろくなる情報活用 番外編 「ルーラル電子図書館」リニューアル 『現代農業』 農山漁村文化協会 / 農山漁村文化協会〔編〕 85(3) (通号 713) [2006.3] 298～301 p
- 14 視点:図書館と情報リテラシー 常世田良 『情報管理』 科学技術振興機構情報事業本部 48(12) [2006.3] 835～837 p

NEWS

1 「本の国へようこそ！！」開催

4月23日(日)(子ども読書の日)に、こどもの読書週間企画のひとつとして、標記のイベントを開催しました。幼児・小学生を対象に親子そろって図書館に親しんでもらおうと、本の並び方のルールを説明した後、指定された本を探し出すゲームやコンピュータ端末を使って実際の貸出処理などを体験してもらいました。この他、大型絵本の読み聞かせとアニメーションを行いました。参加した子どもたちは児童書の書庫へも本を探しに行き、全員本を見つけることができ、興味津々に取り組んでいました。

2 「書庫ツアー」大盛況！

5月5日(金)(こどもの日)に今年度第1回「書庫ツアー」を開催しました。

図書館関係の方も遠方より参加され、当初の予定人数を大幅に上回る31人の参加があり、普段入ることの出来ない書庫を隅々までご案内し、特色ある資料の一部を紹介しました。ツアー後の質疑応答でも熱心な質問・意見が出され、盛況のうちに終了しました。今年度の「書庫ツアー」は、8月3日(木)と11月3日(金)(文化の日)にも開催します。

3 平成18年度第1回道民カレッジ 能力開発コース 連携講座開催

5月31日(水)、「初歩からはじめる図書館活用術」と題し、一般の方を対象とした講座を開催しました。当館の所蔵資料の検索方法やWeb OPACなどインターネット上の資料の探し方、生活に役立つ参考図書などを紹介し、受講者の積極的な情報活用が期待される講座となりました。今年度前期は、この後「インターネット活用術 図書館員が選んだおすすめサイト」、「図書館利用講座 郷土を調べる基礎資料・入門編」を行う予定です。

4 文部科学省『これからの図書館像 - 地域を支える情報拠点を目差して - 』公表

既にご覧になった方も多いかと思いますが、文部科学省は4月5日付けで標記の冊子を「これからの図書館の在り方検討協力者会議」の報告書として公表しました。報告書では設置者である地方公共団体、図書館職員、住民へ報告書が図書館改革と発展への指針となるよう呼びかけ、レファレンスサービスの充実など、地域や住民に役立つ図書館になるために必要となる新たな視点や方策などについて提言をしています。文部科学省のHPからもPDFファイルで全文が閲覧できます。また、『図書館雑誌』(Vol.100 No.5 2006年5月号)の「霞ヶ関だより」でも概要が紹介されています。

文部科学省：これからの図書館像 - 地域を支える情報拠点をめざして - (報告)

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06040513.htm

5 函館市中央図書館、帯広市図書館、幕別町図書館がWeb OPAC公開

函館市と帯広市が新館開館と同時に、また幕別町は忠類村との合併にあわせWeb OPACを公開しました。相互貸借にあたっては、『道内市町村立図書館(公民館等)貸出条件一覧』(北海道図書館総合目録研究会 平成15年4月)と、新規の公開館には、正確な書誌的事項と請求記号・資料番号等を付記し、マナーを守って依頼しましょう。

なお、新規にWeb OPAC公開の際には、当館までご連絡いただけますと助かります。

6 NHK教育テレビで図書館の本の被害をテーマにした番組を放送

NHK教育テレビの番組「道徳ドキュメント」(小学校5・6年生対象)で、「みんなの本をどう守る？」が放送されました。宇都宮市立図書館の書き込みや盗難などの本の被害を題材に、公共のマナーについて考える内容になっています。5月31日(水)、6月2日(金)、7日(水)、9日(金)の4回放送されました。番組HPで放送のシナリオ、写真などを見ることができます。

NHK教育テレビ：道徳ドキュメント

<http://www.nhk.or.jp/doutoku56/ja/frame.html>

7 国立国会図書館「統計資料レファレンス・ガイド」公開

国立国会図書館はホームページに日本語の統計情報のガイドとして「統計資料レファレンス・ガイド」を公開しました。冊子体またはインターネット上の日本語の統計資料の主要なものについて、解題をつけ、紹介しています。内容は現在と過去の統計を検索するツール(書誌、索引、便覧等)、総合統計書、分野別統計書、長期統計書、国際統計書などについてです。さらに、「検索ツール対象時期一覧表」などを掲載し、個々の資料の対象時期や収録分野の特徴を一覧できるなど、統計資料の総合的なガイドとなっています。最新情報や関連するインターネット情報にはリンクが張られていますので、とても参考になります。

国立国会図書館のトップページから「資料の検索」へ飛びますと下の方の「デジタルアーカイブポータル」の次に「統計情報レファレンス・ガイド」が掲載されています。

国立国会図書館：トップ>資料の検索>統計資料レファレンス・ガイド

http://www.ndl.go.jp/jp/data/reference_guide/index.html

8 『図書館のための個人情報保護ガイドブック』出版

JLA 図書館実践シリーズから藤倉恵一著『図書館のための個人情報保護ガイドブック』が出版されました。個人情報保護法施行以後の図書館において、個人情報保護のために知っておきたい基礎知識をコンパクトにまとめています。図書館に適用される個人情報保護法令や個人情報の定義をわかりやすく解説しています。また、登録やレファレンスなどのカウンターでの利用者対応や名簿の取り扱い、業務の委託に関する情報の取り扱いなど、図書館実務に即して留意点を紹介しています。現場の業務の参考にぜひご覧ください。

9 グループに分かれてのレファレンス演習

平成18年度全道図書館新職員研修会が6月7日(水)～9日(金)に開催され、全道から39名の図書館職員が参加しました。当課は、日程3日目のレファレンス講義・演習を北方資料部とともに担当しました。特に今回の演習では、初めての試みとして、受講者をグループ分けし各々に担当職員がつく形で行い、まとめの解説もグループごとに行ったことで、調査プロセスの分析や参考図書を紹介がきめ細かにでき、演習を深めることができました。

10 BL(ビジネスライブラリアン)講習会北海道開催

平成18年9月17日(日)～19日(火)、標記の講習会が北広島市図書館において開催される予定です。この講習会は、ビジネス支援図書館推進連絡協議会が主催するもので、これからの図書館の可能性を拓げるための司書のスキルアップとしてとても有効な研修となります。詳細については未定ですが、今後北広島市図書館、ビジネス支援図書館推進連絡協議会のHPに注目しましょう。

北広島市図書館 <http://www.lib.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/>

(参考：平成18年度図書館事業推進計画 PDF約342KB)

ビジネス支援図書館推進協議会 <http://www.business-library.jp/index.html>

編集後記

先日よりレファレンスの電話と FAX 等が集中し、あわただしい日が続いています。でも、皆さんからのレファレンスを通じて、各図書館の様子や当館のレファレンスに役立つ資料等新たな発見があります。これからも様々なツールに挑戦的に触れながら、回答していきたいと思います。どうぞお気軽に調査をお寄せください。(K)

奉仕課から参考調査課の一員になりました。よろしく申し上げます。電話、FAXでの受け答えがまだまだこなれていないので、相手にとって気持ちよい対応ができるようになりたい毎日です。初めてのDo-Reの原稿は初めはドキドキしながら、締め切り間近はヒヤヒヤしながらの執筆でした。(や)

初めてのことばかりで、新鮮な気持ちでスタートした新年度でした。“初心”にかえて、いろんな経験を積んでいきたいと思います。事項調査では、新しい知識を得ることができます。でもすぐ忘れてしまうことが悲しいです。脳を鍛えて、記憶力もアップできたらと思います。(え)

今回、レファレンス統計の記事を担当しましたが、統計を読んで記事を作るという作業は考えていたより難しいものでした。最終的な形にまとまるまで何度も構成をやりなおしたため、他の方と比べて一番時間がかかってしまいました。情報提供いただいた由仁町ゆめっく館にお礼申し上げます。(T)

今号の「市町村のみなさんからの発信」で寄稿していただいた江別市の佐々木館長さんは、今年度館長にご着任早々、北海道図書館振興協議会と当館主催の研修会にも講師としてご協力いただいております。大変お忙しい中、地域に関わる読みごたえのある文章をお寄せいただきました。心から感謝申し上げます。さて、本誌新年度第1号ですが、前号までNews欄で取り上げていた雑誌記事紹介を「レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介」として独立させました。今年度も市町村の皆さんとのコミュニケーションと情報ツールとしての内容充実に努めます。(宮)

平成18年度も、唯々、あわただしく走り出しましたが、市町村の皆様のご協力を得て“役に立つ”仕事をしたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。(S)

付 録

相互貸借 検索と申込み の基本原則

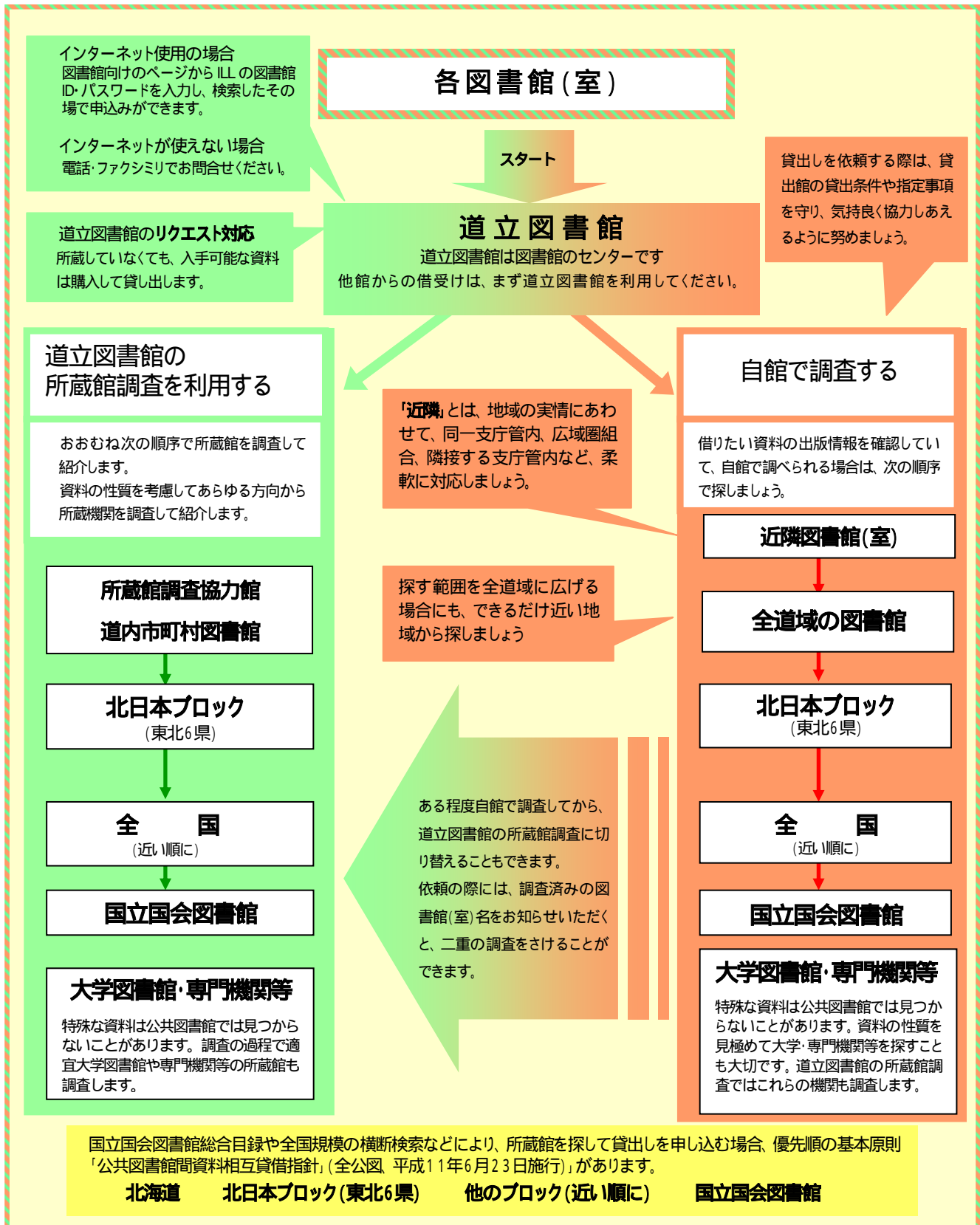
平成 18 年度

「市町村図書館職員レファレンス体験研修」実施要項

メールレファレンス試行のご案内

—まず道立図書館から、そして近くの図書館に— 相互貸借<検索と申込み>の基本原則

借り受けるときは、次の順序を目安に検索（照会）し、申し込みましょう。



平成 18 年度
「市町村図書館職員レファレンス体験研修」
【 実 施 要 項 】

今年もレファレンスに関する実務研修を実施します。

レファレンスは、貸出しと並んだ図書館サービスの柱です。図書館資料を効率的に使い利用者の調査を支援する業務は、便利な図書館をアピールできます。

市町村図書館と道立図書館が連携協力をする事は、よりよいサービスにつながります。共に学ぶマンツーマン形式の研修の創造に、あなたも参加しませんか？

当館の市町村サービスの流れ（リクエスト、調査回答、貸出し、コピー など）をご理解いただくチャンスにもなります。

対 象 者： 図書館の実務経験が1年以上で、所属長の推薦を得られる者
時 期・期 間： 次表のとおり7回を予定します。期間は概ね1日以上とし、受講者の希望により決定します。

（実施時期）

回 次	1	2	3	4	5	6	7
時 期	7月 下旬	8月 下旬	9月 中旬	10月 上旬	11月 中旬	12月 上旬	2月 上旬

人 数： 1回につき1組2名以内

講 師： 参考調査課職員

場 所： 道立図書館参考調査課

内 容 等： 当館の所蔵資料及び電算システム等を使用します。

レファレンス演習課題（3問程度の宿題）を事前に送付します。

カリキュラムは、研修者の要望に添って個々に作成します。

レファレンス業務全般について、どんなことでもご相談ください。

例としては、次の内容も考えられます。

道立でのレファレンスの流れ（受付から事後処理）

ツールの評価と利用（例：地名、人名、法令、判例、統計、国語

辞典、または全般的な基本ツールなどの検証）

インターネット利用のレファレンスの可能性

（有効なサイト情報と使い方）

レファレンス・インタビューの工夫

（利用者の質問を上手に受けるには）

相互貸借（道内・道外）のルール情報

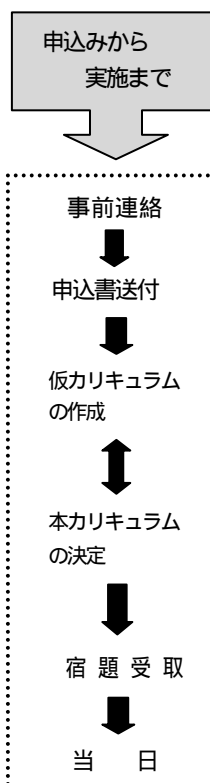
道立図書館業務用データベース体験

自己課題（自館受付）レファレンスを道立資料で調査する。

書誌情報・書誌確定の方法（データベースを中心に）

課員との情報交換

地域（郷土）資料で調べる。（北方資料部対応）



そ の 他： 研修は無料です。その他の経費は参加者のご負担でお願いします。

申込みの〆切は、
研修希望日の
1ヵ月前です。

問い合わせ・申込み先

【申込みの前にご連絡を！】

北海道立図書館奉仕部参考調査課（TEL011-386-8521 FAX011-386-6906）

メールレファレンス試行のご案内

当館は、平成 18 年 7 月 1 日から電子メールによるレファレンスの受付と回答を、試行として実施します。メールレファレンスを受付ける対象は、道内の公共図書館および公民館図書室等です。以下の申込み方法によりご利用ください。

メールの「件名」には「事項調査」か「所蔵（館）調査」かをご記入ください。

次の記入事項をきれなくご記入のうえ、お申込みください。

図書館（室）名，担当者名

メールアドレス

電話番号

FAX 番号

照会事項（質問者は子どもか大人かなども、できるだけ詳しく。所蔵調査の場合は、書名などわかっている事項をきれなくお知らせください。）

典拠（何月何日の 新聞夕刊の 面で見た、TRC 新刊 MARC より、など。）
調査済みの資料やインターネットサイト（URL も明記）、データベース等とその結果

照会済み機関（図書館）とその回答

従来の「事項調査申込書」、「所蔵(館)調査申込書」を使用し、添付ファイルでの送信も可能です。

メールを送信する前に、ご記入事項についてもれがないか再度ご確認ください。

添付資料があるときは、その旨を明記し、メールもしくは FAX で送信してください。

申込み先アドレス

一般事項（奉仕部参考調査課宛）

reference@library.pref.hokkaido.jp

北海道・旧樺太・千島列島に関すること（北方資料部調査運用課宛）

hoppo2@library.pref.hokkaido.jp

メール以外の方法で回答することもあります。



Do - Re(どうれ) の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の
略から名付けました。
しかしながら
“どれどれレファレンス”からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do - Re

北海道立図書館レファレンス通信 24(通巻28号)

発行年月日 平成18年6月23日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069 - 0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
